**2022平和ノサップ集会アピール**

択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島からなる北方四島は、日本固有の領土である。

しかし、77年もの長きにわたり、ロシアにより不法に占拠され続けており、返還の先行きは見通せない。

・北方四島を追われ、戻ることも、自由に訪ねることもできない元島民の方々は、平均年齢が87歳に近づいている。終戦時に暮らしていた1万7,291名の方々は、現在ではその3割程度まで減少した。残された時間は決して長くない。

「自分が生きている間に、の土を踏みたい、戻りたい」。元島民の方々の切実な想い・願いを聴くたびに、心は痛むばかりである。

そのような中、本年2月、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始した。終結の兆しすら見えず、いま現在も軍事侵攻は続いている。第二次世界大戦以降、国際社会が営々と積み上げてきた平和や秩序を踏みにじり、人命と人権を一顧だにしないこの暴挙を、私たちは決して許さない。

一方、この機に乗じて、行き過ぎた軍備拡張を求める声に対しては、自制と冷静な国民的議論を求める。日本は、平和を希求する国民・国家として、国際協調主義に立ち、アジア・太平洋諸国と連携した地域の安定と世界平和の実現に向けて、積極的に役割を果たす必要がある。

引き続き日本国政府には、1日も早い北方四島の一括返還実現に向けて、対ロシア外交交渉に毅然たる態度で臨むことを求める。

平和で安心な社会は、私たちが暮らし、働く上で必要不可欠である。

本日、3年振りに北方領土返還要求運動原点の地である「根室」に結集した私たちは、北方領土問題や元島民の方々の想い・願いを自らの課題として心に刻み、平和運動の輪を広げていくことを、ここに確認し合う。

そして、700万連合の力を結集し、北方四島の早期一括返還と日ロ平和条約の締結による真の平和の実現に向けて、関係諸団体と連携して日本国政府を後押しする。このことを皆の総意として誓い合い、ここに決意する。

2022年9月11日

連合2022平和ノサップ集会